

ぴよんの食卓（ちょっと贅沢）

汁椀 会津漆器 花塗

ごはん茶碗 清水焼 梅柄

箸 輪島塗

ムフフ…

ヒヨコのわき道

ほら、君もこっちに いらっしやい

第45回 すぐ目の前にある特別？ 私たちの習慣

「何気ない習慣に、不思議なことが？」

あなたが家族で暮らしているとして、ごはん茶碗と、お箸、湯呑み（またはマグカップ）は、それぞれ誰のものが決まっていますか？

わたしも自宅には、自分専用の茶碗、お箸と、マグカップがあり、家族のものと同様でないように、それぞれ大きさも形も違うデザインのものを使っています。

え？なぜそんな当たり前のことを言い出すのかって？

実はこのような習慣は、ほとんど日本だけの、とても珍しいことなんです。

「海外の人々の食べ方」

海外の料理の配膳方法を見てみると、その国なりの様々な食器が使われていますが、例えばコース料理に使われる皿も、ナイフも、スプーンも、すべて同じデザインのことを人数分だけ用意するのであって、「このナイフは誰々さんのもの」といった区別はありません。

食事するたび新たに割り当てられる食器を「銘々器」と呼びます。中華料理のように大皿に盛りつけてある料理にそれぞれが箸をつける場合は「共用器」とも呼ぶのだそうです。

私たちもご飯のおかずを盛り付けるお皿は、銘々器や、共用器を使っていますね。

「じゃあ僕のお茶碗は、なんて呼ぶの？」

私たちが当たり前だと思っている、自分専用の食器は、「属人器」と呼ばれているようです。

ただし、そう古くからある言葉ではなく、弥生時代を中心に幅広い研究を行った日本の考古学者、「佐原真」先生が研究の過程で使いはじめた造語だそうです。

「属人器」の存在は、縄文時代からその兆しがあるとも言われますが、有名なのは奈良時代の平城京遺跡から、個人の名前を書き込んだ食器が見つかった例です。属人器という習慣は、かなり古くからあることがわかります。

縄文時代から弥生時代にかけて、大陸から繰り返し移民がやってきて、先住民との交流・争いを経て、今の日本人が成立したはずなのです。でも現在の大陸（中国と朝鮮半島）の文化には、歴史的に属人器の習慣は無かったようなのです。少なくとも盛んではなかったと。中国から「箸と匙」が伝わった時も、箸は日本で属人化され、匙は明治時代以降に西洋のスプーンが広まるまで忘れ去られていました。そして現在でも、名前でも彫刻しなければ、見分けが付かないせいか、西洋式のナイフ、フォーク、スプーンは決して属人化されることはないようです。

「属人器さん、どこから来たの？」

属人器が、大陸からの渡来人が持ち込んだものでなければ、一体どこから伝わった習慣なのでしょう？

縄文人の祖先となった、南方系の民族の習慣だったのでしょうか？

しかし、かの琉球王国では、中華文明に大きな影響を受けたため、属人器の習慣は今の沖縄県では一般的ではないそうです。

古い時代の日本では、規格のそろった食器を多数入手することは困難だったから、属人器という習慣が生まれた（存続した）という意見もありますが、わたしはこれには反対です。貴族が愛でるような高級品ならともかく、食器は古い時代のほうが、サイズもデザインも種類が少なく、見分けのつかないような食器しか手に入らなかったと考えるほうが自然ではないでしょうか？

実際、平城京で見つかった属人器は、多量に生産される素焼きの土器に、見分けが付くように名前が「墨書き」されていたのですから。属人器の存在には、日本人なりの、何か大切な、精神的・思想的理由があるのでしょうか。

たとえば、箸や茶碗は、繰り返し使うたびに直接口をつけることから、その人の「何か」が宿るのではないかと。

日本では古道具には魂が宿り、やがて妖怪に変じるという考えもあり、江戸時代の絵にも描かれています。このような発想とも、何か関連があるのでは？

揃った食器を作ることも、買うことも出来なかったからなんて、ナンセンスだと思うのです。

「次は、卵かけごはん？」

もうひとつだけ、日本人特有の習慣について触れておきましょう。

突然ですが、「卵かけごはん」は好きですか？

もちろん、わたしは大好きです。特に黄身だけをかけて、しょうゆを垂らして食べるのがたまりませんね。「卵かけごはん専用しょうゆ」という商品も、好奇心から買ってしまったことがあります。

日本が高度経済成長を経験するまでは、生卵は高価なものでした。かつては病人のお見舞いに、「御卵」と書かれた箱に丁寧に包装された鶏卵を送る習慣もありました。私が子供のころの東京でも、食事の蛋白源はやはり魚介類が主で、まだ卵も、チーズも、バナナもご馳走だったのです。

でも現在では卵は安く手に入る食品。卵かけごはんを知らないヒトはいないでしょう。そして多くの人が、卵かけごはんを愛しているのでは？

「異文化人への衝撃？」

さて、この「卵かけごはん」。日本人に超固有の食べ方なのです。

他の国の文化では、卵を生で食べるということは、考えられないこと。

先祖代々、子供のころから卵を生で食べたことのない、日本人以外のほぼすべての人々にとって、それは奇妙な習慣というより、単なる究極のゲテモノ。

テレビ番組で、ごはん生卵をかけて食べる様子を見た外国人が、明らかに「ドン引き」しているのを見たことがあります。

海外のヒトと食事を共にする場合、特に牛丼屋や、すき焼き屋で食事をする場合には、事前の十分な説明が必要かもしれませんね。卵かけごはん、おいしいのになぁ。

さあさあ、今日も自分専用のご飯茶碗とお箸で、日本独自の卵かけごはんをいただきますよ。

これであなたも、「究極の日本人」ですよ。

ついでに一口食べたら、「これはうまい！」と歌舞伎の見栄を切ってみては？

なんてね。　ぴよぴよ？